

The Tokyo Tanuki Times

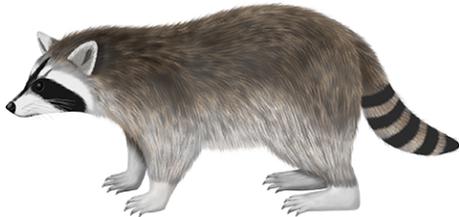
東京タヌキタイムズ

2013年1月号 通巻49号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

「東京タヌキ探検隊！」を名乗ってますが… タヌキだけでも東京だけでもありません



皆さん、夜道でいきなり
出会っても確実に判別で
きますか？
(左上から時計回りにタヌ
キ、ハクビシン、アナグ
マ、アライグマ)

全世界のタヌキスキの皆様、明
けましておめでとうございます。東
京タヌキ探検隊！を今年もよろしく
お願いします。

名実不一致？

東京タヌキ探検隊！のホームペ
ージをご覧になっている方には既にご
存知のことですが、東京タヌキ探
検隊！は「東京」以外の目撃情報も
集めていますし、「タヌキ」以外の
目撃情報も集めています。最初の目
的は「東京(23区)」の「タヌキ」の
ことを調べることでしたから、「東
京タヌキ探検隊！」の名前は名実び
ったり一致していたわけです。

ところが情報を収集していくと、
明らかにハクビシンと思われる目撃
例が少なからずあることがわかって
きました。また、アライグマも23区
内に進出している可能性が考えられ
ました。そういうこともあって、タ
ヌキ以外の情報も集めるようになった
のです。ただしどんな動物でもい
いのではなく、「タヌキに大きさが

近い食肉目の動物」としています。
つまりハクビシン、アライグマ、ア
ナグマ、キツネです(イヌ、ネコは飼
育動物なので除外します)。この他
に体はやや小さいですが都市にも生
息している動物としてチョウセンイ
タチ、ニホンイタチ、生息分布を拡
大しつつある外来生物ジャワマン
グースも対象に含めています。

対象となる地域は早い時期から東
京近県まで含めていました。という
のは、23区の生息分布がその外側地
域とどうつながっているのかも理解
しなければならないと考えていたか
らです。情報収集を続けていくと、
対象地域を限定することに意味がな
いように思えてきました。そこで地
域を限定することはやめ、全国を対
象とすることにしました。

その結果、現在では「東京タヌキ
探検隊！」という名前と活動内容が
一致しないということになってしま
っています。あらためて名付けるな
らば…「全日本タヌキぐらいの大き
さの動物探検隊！」とか？(笑) そ
れでも、「東京タヌキ探検隊！」の

名前はこれからも(おそらく)ずっと
使い続けていくでしょう。調査研究
の中心は東京であり、タヌキなので
すから。ただし同時にもっと広い視
野からも調査研究するというスタ
ンスも持ち続けていくつもりです。と
いうことで、今後もタヌキ以外も東
京以外も目撃情報をどんどんしらせ
てください。そこからまた新たな発
見があるでしょう。

次回50号

東京タヌキタイムズ、次号はつい
に50号です。今月公開予定の最新
の報告について解説する予定です。今
年も新たに報告することがいろいろ
ありそうです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなど
の情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

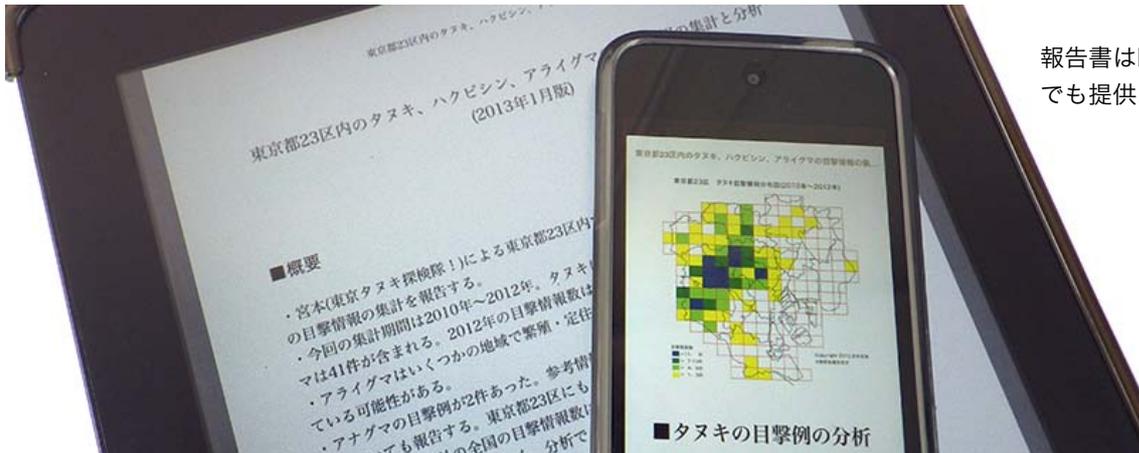
東京タヌキタイムズ

2013年2月号 通巻50号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！ tokyotanuki.jp

最新報告書、今年も新たな展開が！ 通巻50号到達しました



報告書はPDF、ePub
でも提供しています。

東京タヌキタイムズは今回で50号になりました。今後もお愛読よろしくをお願いします。

報告書トピックあれこれ

そして今年も新しい報告書をホームページで公開しました。内容は例年とだいたい同じなので、ちょっとつまらなく感じるかもしれません。しかし、新情報が合間合間にはさまっていますので気を抜かずに最後まで読んでいただきたいものです。

例えば、中央区で初めてタヌキが目撃されました。実はこれまでも生息の可能性がある場所がありました。ただ、目撃例は無かったため生息していないのだろうと思っていたのですが、まさにその予想された場所で目撃されたのでした。ですが、そこにずっと定住していたのか、最近どこか他所からやって来たのかはわかりません。新たな目撃情報が待たれます。これで東京都23区でまだ目撃情報がないのは墨田区だけになりました。

ハクビシンが水平方向にジャンプする距離が明らかになった例もありました。その距離は約80cmという平凡な記録ですが、その場所はなんとビルの4階！ こんな高い場所で目撃されたのも初めてのことです。

ハクビシンが歩道橋を渡った、という例も2件ありました。道路を渡るのは危険すぎる、しかし横断できる電線もない…そういう状況の時には歩道橋も利用するという事なのでしょう。歩道橋を敬遠する人間も多いでしょうから、ハクビシンにとっては安全な経路かもしれません。

報告書ではタヌキの長距離移動の事例も紹介しています。目撃情報がほとんど無い地域にタヌキが現れた場合、近くの定住地からやって来た可能性が考えられます。例えば皇居の東側地域がそうです。以前、大手町のビル地下でタヌキが捕獲される事件がありましたが、これも長距離移動の好例です。

ハクビシンの食べ物について、今回はこれまでの事例をまとめました。そのほとんどは果実ですが、東

京都23区でもいろいろな果樹があることがわかります。1番人気はカキノキ(柿)ですが、これは樹木数が多いためでしょう。そんなハクビシンは極端な果実食なののでしょうか。果実の他に食べるものがない、というのがその実情なのかもしれません。

アナグマについては次号！

しかししかし、今年の報告書での本当の目玉は、タヌキでもハクビシンでもアライグマでもないかもしれません。なんと、アナグマの目撃情報があったのです。東京都23区には生息していないと考えられていたアナグマ。次号で詳しく報告します。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年3月号 通巻51号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

アナグマとはどういう動物？

東京都23区内で生息確認！



タヌキ

イヌ顔。夏毛だと毛が短く、全身もイヌっぽく見える。耳は丸みのある三角。クマのよ
うな丸耳ではない。



アナグマ

タヌキよりも低く、平べったい外見。鼻は長いがいヌっぽくはない。目のまわりの黒模様もタヌキと異なる。耳は小さい。

東京都23区にタヌキ、ハクビシンが生息していることは既によく知られています。少数ながらアライグマが生息していることもわかっています。しかしアナグマとキツネは確実な目撃情報がなく、現在は生息していないものと考えられていました。

アナグマがいた！

2013年1月、大田区在住の方からタヌキとハクビシンの目撃情報が寄せられました。ところが添付された写真を見ると、ハクビシンだという写真はどれも変なものでした。ガラス越しに撮ったためにぼんやりしているのですが、妙に横幅があり、顔の様子が白地に黒で、鼻がピンク色ではありません。これはハクビシンではありません。これは、まさか…アナグマとしか考えられないのでした。地図で現場付近の植生、地形などを調べてみると、確かにアナグマ好みの環境のようです。

アナグマは「クマ」と名前がつきますがイタチ科に属する動物です。

ぼつたりした体格からはイタチを想像することもできませんが。

「アナ」とは穴を掘って巣穴にすることに由来します。巣穴は普通、斜面に掘られます。縦穴よりも横穴の方が巣としては利用しやすいからです。足の爪は大きく、穴掘りに適しています。タヌキがその巣穴をちゃっかり利用することもあることから「同じ穴のムジナ」という言葉ができました。ムジナはタヌキまたはアナグマを指す名称です。両者は外見や生態が似ているため、昔からよく混同されていました。ムジナという名称も地域によってアナグマのことだったりタヌキのことだったりしました。

アナグマもタヌキと同じく夜行性で雑食です。体の大きさもだいたい同じぐらいです。

東京都23区にアナグマが生息していることがわかったのは大発見です。もしかすると、これまでの目撃情報の中にもアナグマを他の動物と誤認した例があったのかもしれない

ん。データベースの過去の記録を見直す必要がありそうです。

都会で生きのびれるのか？

23区内に生息するアナグマの数はおそらく多くても数十頭程度でしょう。生息地は連続しておらず、分断されているのも確実で、このままでは絶滅してしまう可能性が高いでしょう。しかし、そもそも都会はアナグマにとっては住みやすい場所でないのも確かなことです。絶滅するのは仕方がないことなのか、保護すべきなのか。保護する必要があるならば何をすればいいのか。多くの人にぜひ考えてほしいのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Civet Times

東京ハクビシンタイムズ

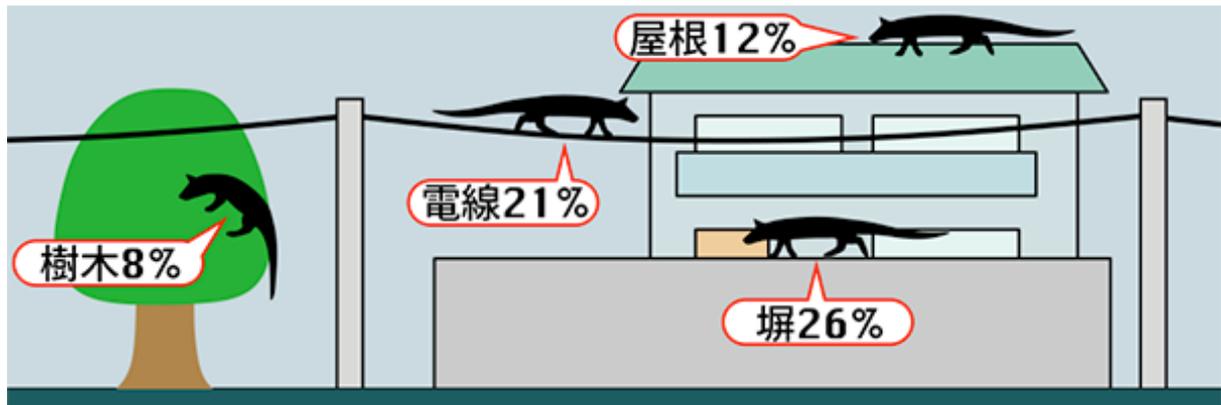
2013年4月号 通巻52号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京ハクビシン探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンを発見する方法

ハクビシンはどこに現れやすいのか？



ハクビシンが目撃された場所(重複有り)。

東京タヌキ探検隊！にはハクビシンの目撃情報が多数寄せられていますが、私、宮本自身はまだ野生のハクビシンを見たことがありません。どうすれば東京都23区でハクビシンを目撃することができるのか、考えてみました。

統計的にわかること

まずはハクビシンが多く生息する場所を調べなければなりません。目撃情報を集計すると、面積当たりの目撃件数が多いのは、新宿区、豊島区、中野区がトップ3です。さらに言うと、ビル街よりも住宅地の方が目撃確率は高くなります。

次はハクビシンが現れる時刻です。ハクビシンは夜行性です。日没後から日出までの時間帯によく目撃されています。

ハクビシンが目撃される場所をもう少し詳しくみてみましょう。2010～2012年の目撃情報623件を集計すると、道路337件、民家210件、企業・法人24件、公園16件、

学校(教育施設)7件、寺・神社4件となっています。さらに特殊な場所について別に集計すると、塀・フェンスの上は161件、電線・電柱は133件、屋根・屋上・ベランダは74件、樹上は52件といった数字が得られます(重複有り。上図では%に換算)。こういった高所にも注目することでさらに目撃確率を高くすることができるわけです。

ただし、路上・地面にハクビシンがいる確率が最も高いということを忘れてはいけません。実は路上・地面は集計していないため正確な数字がすぐには出せないのですが、約50%は路上・地面での目撃となるようです。優先して観察すべきは路上・地面なのです。

以上をまとめると、こうなります。ハクビシンを目撃したいならば、新宿区、豊島区、中野区の住宅街に引っ越します。そして日が暮れたら外出し、夜の間はずっと住宅街を歩き回ります。常に路上のあやしい動物には注意してください。さらに、時々塀の上や電線を見上げてい

ると目撃確率を高めることができます。これらを実行すればハクビシンを高確率で目撃できるはずなのです！(注：今号は4月1日企画です。この結論はウソではありませんが、目撃できなくても文句は言わないでください。)

待ち伏せ観察法も

ハクビシンを歩いて探すのではなく、待ち伏せる方法もあります。ハクビシンは果実が大好きです。柿やビワなどの果実が成る季節に、それを食べに来るであろうハクビシンを毎晩じっと待ちかまえるという方法です。庭に果樹があるなら室内でゆっくりと待っていればいいのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年5月号 通巻53号 毎月1日発行 購読無料

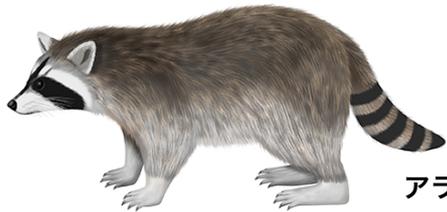
©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキの空似、アライグマ 東京都23区内でも数十頭が生息



タヌキ



アライグマ



アライグマは図のように後足で立ち上がることが普通にできる。

この東京タヌキタイムズではタヌキの他にハクビシン、アナグマも紹介してきました。もうひとつ、忘れてはいけない動物があります。それがアライグマです。アライグマは本来は北米・中米にしか生息しない動物です。日本にいるアライグマはペットとして飼われていたものが脱走したり、捨てられたりしたものが先祖です。現在、アライグマは外来生物法によって特定外来生物に指定され、駆除の対象となっています。

タヌキとアライグマの違い

ややこしいことにアライグマとタヌキは外見が良く似ているため混同されやすい動物です。見分け方を知らない人が、夜道でちらりとしか目撃できなかつた場合にはっきりと判別ができないのも仕方ありません。

タヌキとアライグマの最も確実な見分け方は尾の模様です。アライグマはシマ模様(リング模様)があります。タヌキの尾は先端が黒っぽくなる程度ではっきりした模様はありま

せん。体の全体的な色は、タヌキは茶褐色、アライグマはグレー(灰色)です。まれにアライグマにも茶色の個体があります。目のまわりの黒い模様は、タヌキは左右でつながりませんが、アライグマはつながっています。少なくともこれらのことを覚えておけばとっさの時の判別に役立つでしょう。

もうひとつ重要なのは、アライグマは上右の図のように後足で立つことができることです。これはタヌキには不可能な姿勢です。タヌキの骨格はイヌとほぼ同じです。イヌが後脚で立つととても不安定な姿勢になりますが、タヌキも同じなのです。

アライグマ、東京を侵攻中

関東では1990年代から神奈川県鎌倉市でアライグマ被害が多発しました。アライグマはそこから南関東に分布を広げていきました。東京都23区のアライグマもそういったアライグマに由来すると推測されます。タヌキやハクビシンに比べると目撃

情報は少ないのですが、目撃数の比較から東京都23区内だけでも数十頭から100頭程度生息していると推測されます。

今現在、東京都23区では目立ったアライグマ被害はありません。数が多いハクビシンによる被害の方が問題でしょう。ですが、アライグマが数を増やすのも時間の問題かもしれません。気がついた時には手遅れだった、ということにならないよう今のうちから監視をする必要があります。東京タヌキ探検隊！はタヌキだけでなくアライグマの動向にも注目しています。タヌキ、ハクビシン、アナグマ、そしてアライグマ。私たちのすぐ隣にはいろいろな野生動物たちが暮らしているのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年6月号 通巻54号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

意外と気まぐれなタヌキの行動

センサーカメラでわかった行動の詳細



[左]2頭が同時に写った唯一の写真。

[中]フェンスの下をくぐり抜けた瞬間。尾だけが写っている。

[右]狭い通路でUターン中。

今回は今年2月に調布市でセンサーカメラを2週間設置した時のことを紹介します。設置時には特に珍しくもない状況だと思っていたのですが、撮影結果からは非常に有益な情報が読み取れたのでした。

狭い通路を通り抜けるタヌキ

センサーカメラを設置した場所は、両側をフェンスにはさまれた、タヌキ1頭が歩けるほどの幅しかない通路でした。これならば確実にセンサーが反応するはずですが、2台のセンサーカメラは撮影範囲が重ならないように設置しました。撮影結果を見ると、一方で何も写っていませんでしたが、もう1台がタヌキを写していました。つまりセンサーカメラは正常に作動していたのです。何も写らなかったのは、タヌキが早足で通過してしまったからなのです。実はここはためふん場でもあったのですが、停止したとしても時間はかなり短いようです。ただ、一方のセンサーカメラが反応しなかった場合

が40%ほどもありました。これはちょっと多すぎる失敗数です。実際はタヌキがUターンして戻ってしまったために一方しか反応しなかったのかもしれませんが。

それぞれの写真データの時刻を表に書き出していったところ、タヌキはほぼ毎晩ここを通過していました。冬は活動が不活発になると推測していたのでこれは意外な結果です。この場所は周囲の地勢から推測すると大幅な近道になっているようで、必ず通過しなければならないような場所だったのでしょう。

同時に写真に写っていたのは最大2頭で、時期的にもおそらくつがいと考えられます。ただ、同時に写っていたのはたったの1枚だけでした。つがいは必ずしもぴったり並んで行動するのではなく、別々に行動することも珍しくはないことがわかります。このことは、これまでの目撃情報の集計でも目撃頭数の大半が1頭のみであることから推測できていました。

予測不能なタヌキの行動

タヌキが通過した時刻は20時～翌6時までばらばらでした。一晩の通過回数も1回から8回までとこちらもばらついています。誤解されやすいことですが、タヌキは毎日同じ経路を同じ時刻に巡回しているわけではありません。その日の食べ物の手量や気分、季節によって経路も時刻も変化します(これがタヌキの観察を困難にしている理由です)。

今回のように、特定の一点をタヌキが通過しなければならない場所はセンサーカメラにとって都合がいい場所です。センサーカメラを設置する時は、なるべくこのような狭い場所を選ぶのが原則です。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年7月号 通巻55号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキは4本指、ハクビシンは5本指 ではアライグマは何本指？



タヌキ



ネコ



ハクビシン



アライグマ



アナグマ

※大きさの比率は正しくないので注意

タヌキの足跡については以前にも取り上げましたが、今回はハクビシンなどの足跡も紹介しましょう。

足跡を見分けるには

タヌキの足跡は4本指、イヌの足跡も4本指です。どちらもイヌ科に分類されるため、基本的な体のつくりは同じ、足跡の形もほぼ同じです。イヌもタヌキも前足は本当は5本指なのですが、5本目の指(親指)は地面には届かない位置にあるので足跡には残りません。ネコも4本指ですが、歩く時にはツメを引っ込めますので、足跡に爪跡は残りません。

さて、ハクビシンはと言いますと、5本指なのです。アライグマも5本指、そしてアナグマも5本指です。どれもこれも5本指ですが、どう見分ければいいのでしょうか。

一番わかりやすいのはアナグマです。アナグマのツメは大きいため、足跡でもはっきりとわかるでしょう。次にわかりやすいのはアライグマです。アライグマの足跡は指が長

い形をしています。まるで人間の手の形のように見えることすらあります(大きさは人間よりずっと小さいです)。どちらにも当てはまらなければハクビシンだろうと推測できます。ちなみにイタチの仲間も5本指です。ハクビシン、アライグマの後足は、立ち止まった時にかかとまで接地するため縦に細長い特徴的な足跡になることがあります。

こういったことすべてを記憶するのは難しいでしょうから、足跡の図をまとめた本は手元に持っておきたいものです。現在入手しやすいものとしては、著・今泉忠明「アニマルトラック&バードトラックハンドブック」(自由国民社)という本があります。

こんな所にも足跡が!?

都会では土が露出した場所が少ないため、足跡はなかなか見つからないものです。が、時には意外な場所に足跡が残ることがあります。それはベランダの手すりです。もし屋根

やベランダに何か動物が来ているようだ…と思ったならば、ベランダの手すりをよく観察してみてください。うっすらと足跡が残っていることがあるのです。こういう場所に来るのはたいていハクビシンかアライグマです。足跡をよく見れば5本指であることが確認できるかもしれません。ハクビシンとアライグマは木や壁を登ったりするため、木の幹や木製の壁に爪跡がはっきりと残ることがあります。

足跡を見つけたならば写真も撮っておきましょう。はっきりとは写らなくてもPhotoshopなどで加工することにより輪郭を明瞭にできる場合もあります。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年8月号 通巻56号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

Google Earthで位置情報管理 デジタル地図がもたらした恩恵



[左]GoogleEarthで東京都23区を表示(全域ではない)。赤はタヌキ、青はハクビシンを表す。東部は目撃情報が少ないのが一目瞭然。
[右]目撃情報が多い杉並区にも空白区はある。赤線の範囲が1kmメッシュ。中央が桃井原っぱ公園。境界ぎりぎり(画面右下)でハクビシンの目撃情報が1件あるのみ。



東京タヌキ探検隊！では目撃情報はすべてデータベース・アプリケーションで管理しています。そして位置情報はGoogleEarthで表示できるようにしています。

デジタル地図でわかること

東京タヌキ探検隊！は目撃情報をいただくと、その返信で例えば「半径〇m内に〇件の目撃情報があります」というように付近の目撃例を紹介しています。こんなことができるのも位置情報をGoogleEarthで可視化しているからです。

東京都23区内では目撃情報の累積は2000件を超えており、上の画面のように高密度の情報になっています。ただ、地図を拡大してみると意外とスカスカだったりします。2000件は多いようでまだまだ少ない情報量なのです。それでも、目撃情報が集中する地域があること、東部の低地帯は目撃情報が明らかに少ないこと、品川区・大田区はタヌキは非常に少なく、ハクビシンが多いことな

ど、ビジュアル化することで読み取れる情報は多くあります。

東京都23区外の目撃情報はまだ非常に少なく、ビジュアル化の恩恵はまだ得られていません。

このGoogleEarthの画面はホームページでは公開しておらず、講演などの時にちょっとだけお見せする程度です。というのは、位置情報は微妙に個人情報に関係するからで、じっくり見せられるようなものではないのです。ですのでこの画面をご覧になりたい方は私の講演の機会を逃さないようにしましょう。

GoogleEarth、Googleマップが登場する以前は紙の地図に頼るしかなく、正確に誤差なく位置情報を記録するのは難しいことでした。そのため私はデジタル地図に早くから注目してきました。2007年にはGoogleマップの緯度経度情報を採用し、位置情報の管理が容易になりました。毎年恒例の報告書では分布地図を掲載していますが、この分布地図はデータベース、表計算アプリケーションを駆使して半自動で生成されてい

ます。これも数値で管理しているからこそ可能なのです。

可能性を秘めたサービス

地図のデジタル化はこのように非常に大きな恩恵をもたらしました。前世紀では非常に困難だったことが今では簡単に実現できてしまうのです。パソコン・インターネットの普及はさまざまな有益なサービスをもたらしましたが、デジタル地図はその中でも特に重要なサービスだと言えます。デジタル地図はもっといろいろな可能性を秘めています。これからの生物調査では必要不可欠な存在になっていくでしょう。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年9月号 通巻57号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキはそれほど大きくない ビーグルより小さく、ネコより大きいぐらい



ネコエサをはさんでネコとタヌキのにらみあい。両者は仲が悪いので、同じ画面内にとらえる機会は意外と少ない。体格はほぼ互角というところだがタヌキの方が強い。

(2009年、文京区)

動物園などでタヌキを見ると、意外と小さなおもう人はい多いのではないのでしょうか。もうちょっと大きな動物をイメージしているのでしょうか、ネコとあまり変わらない大きさがっかりするかもしれません。

タヌキ＝小型犬

タヌキの大きさを説明する時、私は「小型犬やネコぐらいの大きさ」と表現します。これならイメージしやすいでしょう。

もう少し正確に定義すると、タヌキの体高は27～37.5cm、体重は3.6～10kg(秋に太る)です。「体高」は「肩高」と同じ意味で、地面から肩の最も高い個所までの高さのことです。「小型犬」の厳密な定義はありませんが、一般的には体高40cm以下、体重10kg以下のイヌを指します。小型犬にはチワワのようなかなり小さい犬種も含まれます。タヌキに最も近い体格のイヌはビーグルです。ビーグルの体高33～38cm、体重7～12kg。ビーグルは

やや胴長短足の体型でタヌキによく似た体型といえます。もちろんビーグルは短毛、垂れ耳ですので体型以外はタヌキとは似ていません。ネコの場合は体高25～30cm、体重4～8kgです。ただし8kgというのはかなり重い方です。以上をまとめると、タヌキはネコよりは大きく、ビーグルよりはちょっと小さい、ということになります。当然ながら個体差もありますのでこの順番通りでない実例もあるでしょうが、目安としては役に立ちます。

大きい、小さいは主観的

タヌキなどの目撃情報のメールでは「大きなタヌキだった」あるいは「小さかった」といった表現が時々見られます。せっかく書いていただいた情報ですが、これはほとんど役に立ちません。というのは、何と比べての大小なのかがわからないからです。普通の人々がタヌキの平均的な大きさを知っているはずはありません。イメージの中のタヌキと比べて

のかもしれませんが、それは意味ある情報ではありません。

もしタヌキが複数いて、その大きさが異なっているというのであれば、それは意味のある情報になります。特に親子の場合は子どもの成長の度合いを知ることができるわけですから重要です。

以上をまとめると、「大きい小さい」は比較する対象があれば意味ある情報になりますが、比較対象が無ければ意味がありません。写真やビデオなら何かがいっしょに写っていることがありますので客観的な計測ができることがあります。定規で直接測ることができれば一番いいのですが、野生動物相手にそれは無理なことですね。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年10月号 通巻58号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

現在入手可能なタヌキの本

意外と少ないタヌキ本



書くネタがなくなったり、最近ではコウモリ調査で忙しいとかいうわけではありませんが、今回は現在入手可能なタヌキの本を紹介します。

タヌキ本4冊紹介

Amazonなどで検索してみると、科学的なタヌキの本は意外と少ないことがわかります。そんな中で現在最も内容が充実しているのは…手前みそですが私、宮本他の共著による「タヌキたちのびっくり東京生活」(技術評論社)です。タイトルの通り、東京都23区のタヌキを中心にした内容ですが、タヌキ一般の説明もちゃんとしています。マンガのページも多くあり、子どもにも読みやすいでしょう。ただ、出版から5年たっているので古くなった情報もあり、内容更新をしたいところではあります。当時はハクビシンやアライグマについては情報不足でほとんど書けませんでしたしね。

「タヌキまるごと図鑑」(著・盛口満：大日本図書)は小学生向けの

薄い本ですが内容は本格的で、重要なことがきちんとおさえられています。学校図書館にはぜひ置いてほしい本です。頭骨とかファンとかも載っていてびっくりするかもしれませんが、これらもタヌキ研究の最前線では欠かせないことです。

「フクロウとタヌキ」(著・波多野鷹、金子弥生：岩波書店)は里山を代表する生物としてフクロウとタヌキを取り上げた本です。タヌキについては、餌付け、交通事故など人間との関係性についても書かれています。事典的な本ではありませんので注意してください。

「野生イヌの百科 第2版」(著・今泉忠明：データハウス)の「野生イヌ」とは野良犬のことではなく、食肉目イヌ科の動物のことです。キツネやオオカミ、ジャッカルなどイヌ科全種が解説されています。もちろんタヌキも含まれています。タヌキ単独ではなく、イヌ科の中の動物としてタヌキをとらえることができます。ただし初版が1993年ですので内容が古い部分もあります。

このようにタヌキの本は少ないですが、他の動物でも個々の種を単独で取り上げた本というのはあまりないものです。

本はいつかは消えてしまう

売れなくなった本は本屋の店頭から消えていきます。「タヌキたちのびっくり東京生活」も在庫が無くなり次第、販売終了となることが予想されます。何十年も売れ続けている本というのは全体から見ると非常にまれなものなのです。

現在入手困難になってしまったタヌキの本はまた別の機会に紹介することにしましょう。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

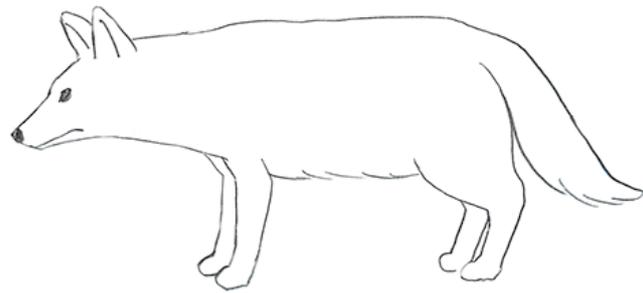
東京タヌキタイムズ

2013年11月号 通巻59号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

白いタヌキの出現確率 捕まってしまったら不幸な待遇に…



鳥取県まで行けませ
んでイラストで描
いてみました。色を
塗らなくていいので
らくちんです。体色
が無くなると、もは
やイヌにしか見えま
せん。そう、タヌキ
はイヌ科なのです。

2013年10月、鳥取県で白いタヌキが捕獲されるというニュースがありました。

白いタヌキは珍しい？

白いタヌキは珍しいということですが、どれくらい珍しいのか計算してみましょう。

まず、日本国内のタヌキの生息数を推測してみます。ニホンジカの生息数は261万頭(環境省、2013年発表)、ツキノワグマは約1万5千頭(環境省、2011年発表)です。タヌキはクマよりも生息範囲が広いので、クマよりも多いでしょう。しかし植物食動物のシカよりも多いことはないでしょう。よって、クマとシカの間程度の生息数だろうと推定できます。おおざっぱには10万のオーダー(10万頭～100万頭)と考えられます。

東京タヌキ探検隊！のデータベースでは、白いタヌキは4件記録されています(今回の鳥取県の事例も含む)。いずれもメディアで報道された

ものです。この内の1件が東京都23区内のもので、東京都23区内のタヌキの総記録数(2013年10月現在)は約1100件ですので、おおよそ千頭に1頭という確率です。白いタヌキは目立つので発見されやすい(=報道されやすい)ことを考慮すると、実際には数千～数万頭に1頭程度の出現率だろうと予測できます。

タヌキの総数を10万頭、白いタヌキの出現率を1万分の1として計算すると、現在日本には10頭の白いタヌキがいることとなります。これは低めの見積りですので、さらに数倍はいるのかもしれませんが、全国に数十頭という数はけっこう多いようにも感じますが、実際に白いタヌキを探すとなるとかなり難しいでしょうし、捕獲できる可能性はさらに低いでしょう。そう考えると今回の捕獲は非常に珍しい事例と言えます。

タヌキを飼うなら良い環境で

今回捕まった白いタヌキは連日、イベントで展示されることになりま

した。ところがタヌキは狭いケージに入れられて展示されているのです。見物客からは距離を置いたり、展示時間を5時間までにしたり、大声を出さないよう注意したりしているとのことですが、ケージの狭さは改善してくれないようです。さすがにこれではかなりストレスがたまりそうです。県はさっそくグッズを作ったりしてはしゃいでいますが、その前に飼育環境の改善をお願いしたいところです。ようやく10月末になって動物園での受け入れが決まりましたが、最初からそのつもりなら展示する必要はまったくなかったはずです。展示するならば少なくとも動物園レベルの飼育環境は整えてもらいたいものです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2013年12月号 通巻60号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

消えた死体のミステリー

骨も貴重な資料になる



タヌキの頭骨。(右)は前方上方から見たもの。タヌキの頭骨の形状はイヌそのもの。イヌよりもイヌらしいと言ってもいいほどである。鼻が長いこと、犬歯が大きいことに注目。採取は2008年。現時点で私が持っているタヌキの頭骨はこれひとつだけ。

タヌキ調査では骨の収集も重要な課題です。特に頭骨の形状はその動物の生態を反映しているので教材として利用できます。問題は骨の入手が非常に難しいことです。

埋めたはずの死体が

東京タヌキ探検隊！には死体の目撃情報も届くのですが、行政が先に回収してしまうので入手はまず不可能です。私有地内に死体があった場合などでは提供していただける場合がありますが、さすがに死体をそのまま丸ごと運び出すわけにもいかないので、いったん地面に埋めていただくようお願いします。そして自然に分解させておいて、1ヶ月～数ヶ月後に掘り起こすのです。そこまで順調に進むことはほとんどなく、これまでうまく骨を回収できたのは1回だけしかありません。

実は骨を回収できる機会は何度かありました。死体を埋めていただき、あとは掘り返すだけということろまで行ったのでした。ところが…

掘り出しに行くと、埋めたはずの死体がきれいに消えているのです。タヌキ大の動物の骨は数ヶ月で分解されるようなものではありません。状況から言って人間が掘り返したとも思えません。カラスが持ち去れる重さでもありません。そもそもカラスは土の中の死体を発見することすらできないでしょう。そうすると、死体を掘り返すことができそうなのは哺乳類、具体的にはネコまたはタヌキが容疑者となりそうです。頭数で言えばネコの方が多いためネコが有力容疑者となるのですが、鼻がいいのはタヌキの方です。どちらが犯人なのか、あるいは別の犯人がいるのか、このミステリーは未だ解決していません。

頭骨から読み取る生態

骨の中でも頭骨はそれぞれの動物の特徴がよく出ています。例えばネコは奥歯(犬歯)の数が少ないのですが、これは肉食に特化したためです。対してイヌやタヌキでは奥歯の

数はネコよりも多く、植物食にも対応していることがわかります。つまりネコよりも雑食ということ。鼻の長さを比べるとイヌ、タヌキは長く、ネコは短いことも一目瞭然です。鼻が長いということはおいをかぐ器官が大きいということであり、嗅覚が優れていることを意味します。

このように骨を比較することで動物の特徴が理解できるのです。そのためタヌキに限らず他の動物の骨(特に頭骨)を集めることはとても重要なのですが…タヌキに限らず入手困難なのです。私が持っているのは他にはイヌ頭骨1つだけです。もし動物の死体を発見されたならばぜひご一報をお願いします。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>